

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年4月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4093700013
法人名	有限会社 福岡医療研究所
事業所名	グループホーム やさしい時間
所在地 (電話番号)	福岡県筑紫郡那珂川町後野136-1 (電話) 092-952-6563
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 20年 3月 7日

## 【情報提供票より】(平成20年2月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 5月 12日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18人
利用定員数計	18 人
常勤	10人
非常勤	3人
常勤換算	13人

### (2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( 円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有( 150,000 円)	<input type="radio"/> 有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年2月18日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.5歳	最低	67歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田内科
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅地の中、広い敷地を有しており、2ユニットが事務室を中央に配して自由に行き来できるように工夫して建てられている。管理者は義母の介護が必要になったことがきっかけで、誰もが安心して穏やかにゆっくりゆったり暮せる生活の場所を提供し共に過ごすことを願って2年前にホームを開設する。夏季にはホームの敷地を近隣の方々にも利用していただくように呼びかけて夏祭りを実施したり、地域行事へ積極的に参加して職員と利用者が地域住民と一緒に過ごすなど、コミュニティーとして地域に根ざしたホームを目指して管理者、職員が共に努力しており、利用者の明るく穏やかな表情からホームの名前と同じ、やさしい時間がゆっくりすぎている感がある。今後も地域に根ざし、地域に求められるホームとして更に発展することが期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善点(職員の利用者への声かけ)は全職員で話し合って改善に取り組んでいる。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については各ユニットの責任者と管理者で検討し、全職員での話し合いや改善に向けての取り組みができていない。評価の意義を管理者、職員が話し合って理解し、全職員で評価を活かした改善に取り組むことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、区長、行政担当者等の参加で2ヶ月に1回開催されており、ホームの状況報告や参加者の要望や意見を積極的に聞きサービス向上に活かしている。また、利用者の困難事例や制度上の疑問点などを市町村担当者を訪ねて相談し、サービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	利用者一人ひとり、個別のホーム便りを毎月作成して暮らしぶりや行事、健康状態などを家族へ報告しており、敬老会行事などの機会に家族、職員との懇談会を開き意見や不満、苦情を聴くようにしている。また、家族面会時にも家族が気軽に意見を言えるような雰囲気づくりを工夫している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入り、地区の運動会や地域行事(春・秋のおこもり)に参加して餅つきや料理と一緒に作ったりして地元の人々と交流することに努めている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念として「ゆっくり ゆったり 穏やかに」と大きく書いて見やすい場所に掲載されているが、理念に地域との関係性が謳われていない。	○	家庭的な環境と住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続を重視した理念への見直しが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り時などには職員間で理念を共有し、日々のサービス提供時に実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、地区の運動会や地域行事(春・秋のおこもり)に参加して餅つきや料理を一緒に作ったりして地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は全職員で話し合っって具体的改善に取り組んでいる。しかし、今回の自己評価については各ユニットの責任者と管理者だけで検討し、全職員での話し合いや改善に向けての取り組みができていない。	○	評価の意義を管理者、職員が話し合っって理解し、全職員で自己評価に取り組む、評価で見出された課題について改善に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、区長、行政担当者等の参加で2ヶ月に1回開催されており、ホームの状況報告や参加者の要望・意見を積極的に聞きサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の困難事例や制度上の疑問点などを市町村担当者を訪ねて相談し、サービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者、家族に地域権利擁護事業や成年後見制度についての説明がなく、職員には研修参加を促しているが、学ぶ機会や活用に向けての支援が不十分である。	○	内部研修の機会や外部研修で職員の理解を深めるようにして、対応が必要な利用者がある場合に説明して支援できる体制づくりが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとり、個別のホーム便りを毎月作成して暮らしぶりや行事、健康状態などを家族へ報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老会行事などの機会に家族、職員との懇談会を開き意見や不満、苦情を聴くようにしている。また、家族面会時にも家族が気軽に意見を言えるような雰囲気づくりを工夫している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員は、馴染みの職員と一緒に行動して利用者との信頼関係を築くように工夫し、利用者が不安を抱かないように配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	若い職員から年配職員、男性職員まで性別や年齢での排除なく生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利も保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修参加者が職員会議にて伝達し、利用者に対する人権尊重に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催しているスタッフ会議は、課題(例えば感染症について等)を決め、課題についての講師を職員が交代で担当するため、事前の準備、学習に努力している。グループホーム協議会で開催される新人研修会にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の文化祭準備に職員が参加して同業者と交流を図ったり、また、管理者、責任者はグループホーム協議会の研修に毎月参加して、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族、本人の希望で体験入居を受け入れている。やむおえずサービスをすぐに開始する場合は利用者を訪ねて本人、家族、関係者から情報を把握して全職員に周知している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>掃除や調理、洗濯物干しなど日常生活を利用者と共に行なうなかで、効率良く行なう方法を利用者より学ぶことが多く、利用者と職員と一緒に過ごし、共に支えあう関係を築いている。</p>		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしを一緒に行なうなかで、一人ひとりの表情や会話から希望や意向の把握に努めている。また、意思の疎通が困難な利用者の場合は家族から過去の生活歴、趣味、特技などの情報を得るようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の担当職員が本人の思いや意向を他職員や家族、関係者から聞き取り管理者、ケアマネージャー、ユニット責任者と話し合っって介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に介護計画の見直しを行なっている。見直し前に心身の状態に変化がある場合は職員や家族、必要の関係者と話し合っって新たな介護計画をその都度作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族、本人の希望で自宅への一時帰宅や外泊、買い物など要望に応じて柔軟に支援している。開設から3年経過後には自宅介護が困難な方を必要に応じてショートステイやデイサービスを利用できるよう指定申請を予定している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を基本的には家族の支援で受診しており、事業所の協力医をかかりつけ医とした利用者は定期的に往診を受けている。家族が受診支援できない場合や眼科、歯科医などへの受診が必要な場合は職員が支援して、受診結果を家族へ報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に医療行為が必要になった場合は事業所での支援が困難であることを利用開始時に家族と話し合っ方針を共有している。以前、家族やかかりつけ医等と話し合いながら亡くなる3日前まで事業所で終末期介護を行なった方もいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけは誇りやプライバシーを損ねないように一人ひとりを尊重した会話がされており、記録等の個人情報も事務所で慎重に取り扱っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	屋外散策を希望する方や自室に鍵をかけないと安心して部屋から出られない方などはその方に応じて対応し、職員の都合を押し付ける事なく、一人ひとりの思いを大切に希望にそった支援をしている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(餃子包み)を利用者と職員が一緒に行ない、食時の後片づけや食器洗いも利用者と職員で楽しく行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏期は毎日、冬期は一日おきの入浴を基本としているが、毎日の入浴や、午前中の中入浴、午後の中入浴など一人ひとりの希望に応じた支援をしている。入浴を拒む利用者には対応を工夫した入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	造花作りをする方、洗濯物たたみや食器洗いを自分の役割として率先して行っている方、掃除道具を自室に準備してモップかけや掃き掃除をしている方など、一人ひとりの力を活かした支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月買い物の日を決めて、希望者と出かけている。予定していない日でも希望者があればできるだけ一緒に出かけている。ホーム近くの散歩は日常的に行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、その他出入口への施錠はしていない。18時以降夜勤時間帯からは施錠をしている。自室へ鍵をかけないと安心して共用部分で過ごせない利用者が1名あり、職員がその都度鍵を渡して対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月の会議開催時に災害時の避難誘導方法や一時避難場所を職員間で確認し合っている。しかし、消防署や地域住民の協力を求めている。避難訓練は実施していない。	○	災害時に慌てずに避難誘導を行なえるよう、職員以外に消防署や地域住民、地域の消防団員などへの協力を求めている。避難訓練を実施することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを取り入れた1ヶ月単位の献立表を数人の担当者が話し合っ作成し、個別に摂取量の把握もしている。また、食事以外の時間に3～4回水分補給をしており、自室にポットを準備して自由に飲んでいる利用者もいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集う居間は明るくて屋外に向かってソファが置いてあり、数人で会話を楽しんだり外の景色を眺めたりして自由にくつろげるよう配慮され、手作りの大きな布のカレンダーや大きな鉢植えの観葉植物なども配置されて、季節感を感じながら居心地良く過ごせるような工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>夫婦での利用者は、家族、本人と話し合っ、一部屋を寝室に、もう一部屋は日中過ごすための居間として二人が仲良く過ごせるように配慮されている。また、コタツを置いたり、家族の写真を飾ったり、お位牌を安置して朝夕拝まれている方、造花を作って沢山飾っている方など、一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫がなされている。</p>		